

振り返る時間の豊かさ

副校長 中塩 百合



MATER ADMIRABILIS

夏の暑さを乗り越え、少しずつ秋の訪れを感じるようになりました。子どもたちが活動するには良い季節を迎えます。学校生活が充実したものとなるよう、日々の生活を大事にしていきたいと思います。

10月は、子どもたちにとって学年の折り返しの時期です。自分の学びや学校生活を振り返り、後期に向けて目標を考えます。学期末には各学年で「学年のつどい」があり、一人ひとりが自分の姿をしっかりと見つめ、さらに友だちの発表から多くの学びを得る豊かな時間を過ごしました。より良い自分になりたいと向上心を持っていても、どんな方法があるのか見つけられない子どもにとって、友だちの経験に基づく具体的な話は示唆が多く、身を引き出して聞く子どもが大勢います。集団で学ぶ良さがここにあると感じています。皆の発表に共通するのは、自分の心と頭で気づき、知恵と工夫の上につとめと努力をし、それを勇気をもって行動にしていこうというサイクルです。「学ぶ」の語源は「真似る」だと言われます。友だちからの学びをまずは真似をし、行動してみることが成長へと繋がっていきます。

世の中でも、近年は「振り返り」や「リフレクション」が大事と言われ、有名なアスリートたちも練習後に振り返りノートに記したり、グループでディスカッションしたりして次に活かしていると聞きます。その際、「安全」な場づくり、つまり「失敗を責めない」「率直に話せる雰囲気づくり」を心がけることが良い振り返りに繋がると言われます。終業式には成績表を持ち帰りますが、穏やかな雰囲気の中、子どもたちが自分の行動や考えを整理しながら振り返り次への意欲をもてるよう、ご家庭でも良き問いをもって導いていただけるとありがたいと思います。

10月20日は、聖心のマリア様である「感ずべき御母」のお祝い日です。この絵は、世界中の聖心女子学院に必ず飾られていて、聖心のシンボルになっている聖画です。そこに描かれたゆりの花、聖書、糸紡ぎは、それぞれ「清らかな美しい心」「学びや知性」「働きや実行力」を表し、聖心がめざす教育理念を子どもたちにわかりやすく示しています。子どもたちの行動の原点は魂です。その意味からも「振り返り」「内省」を学校でも家庭でも大切に、そこから行動へと導く知性をしっかり磨き、自律した子どもへと育つよう、これからも共に子どもたちを見守ってまいります。

Mater Admirabilis, lilium inter spinas, Mater Admirabilis, ora pro nobis. (感ずべき御母、あざみの中の百合、私たちのために祈って下さい。)

10月の行事予定

1日(水)	都民の日	14日(火)	後期始業式・身体測定・
3日(金)	面談日①・午前授業	3・4限平常授業・引き取り訓練	
6日(月)	面談日②・午前授業	15日(水)	月曜時間割
7日(火)	面談日③・午前授業	16日(木)	児童会・学委任命式
8日(水)	午前授業	20日(月)	感ずべき御母の祝日(1st)
9日(木)	前期終業式		6年保護者会
10日(金)	秋休み(みこころ祭)	22日(水)	感ずべき御母の祝日(2nd)
11日(土)	(みこころ祭)		3年社会科見学
13日(月)	スポーツの日	23日(木)	1st English Day
		31日(金)	3限まで授業

※11月1日(土) 初等科入学試験

世界とつながる

児童会 東城 朋美

昨年度から、代表委員会を中心にウクライナの小学校、中学校、高等学校と交流を行っています。交流を行っている学校は、首都キーウから西に離れたジトーミル州にあります。これまで、5回のオンライン交流を行いました。

ウクライナの子どもの多くは、民族衣装ヴィシヴァンガを着て登場します。華やかな衣装は、愛らしい子ども達によく似合っています。自分の国を誇りに思い、伝統や文化を大切にしている様子が伝わってきます。交流を繰り返すうちに、互いの国の文化や学校の様子ができてきて、次第に仲が深まってきました。ウクライナの子どもの多くは、日本への関心が非常に高く、好きな食べ物や行事などについてもたくさんの質問をしてくださいます。



ウクライナには、それぞれの学校の地下にシェルターがあります。日中に警報がなると、皆で地下のシェルターに避難します。シェルターの様子を見せて頂きましたが、そこには机や椅子、子ども達が自由に体を動かせるスペースがありました。昨年度は、地下のシェルターで楽しく過ごせるようにと考え、文房具を集めて贈りました。クリスマスには、クリスマスカードと、寒い冬を乗り切るための温かな靴下をプレゼントしました。中高生と共に募金活動を行い、学校生活を豊かにするために役立てて頂きました。

一番印象的だった交流は、「夢」をテーマにした時のことです。サッカー選手、デザイナー、プログラマーなど、初等科生と同じような子どもらしい夢を語っている子がたくさんいました。その中で、小学2年生の女の子が大きな紙に飛行機と家族を描いて、「私の夢は、dreamという飛行機に乗って、戦争から帰ってきたお父さんと一緒に旅行に行くことです」と発表してくれました。交流を始めて1年、初めて突きつけられた現実には私は言葉を失いました。担任の先生によると、ここにいる子ども達のお父さんの多くが現在兵隊として戦争に行っているということでした。きらきら輝く子ども達の笑顔の背景には大変な困難があつて、でもそれに負けない心の強さをもって生活していることを痛感しました。

今年に入り、ドローン攻撃が激化しているそうです。終戦に向けて希望を抱いていたところでもたくさんの被害があり、もどかしさを感じています。7月には、遠く離れた日本から何かできることはないかと考え、初等科生から千羽鶴とビデオレターを作ってお送りしました。一羽一羽に願いを込めて、世界の平和を願ってお祈りをしました。

ウクライナの方から、「国が困難な状況にある時、日本という遠い国の子どもたちが自分たちのことを思ってくることが何より心強い」という言葉を頂いています。私たちは、これからも世界に関心を持ち、困っている方々に心を寄せて、繋がりを大切にしていきたいと思っています。世界の平和が一日も早く訪れることをお祈りしています。



6年生校外学習



1～3年生秋の遠足



携帯電話所持願いを提出しているご家庭は、緊急時の電話番号の中に

学校【(03)5793-3238(初等科直通)/(03)3444-7671(学院代表)】も登録することをおすすめいたします。

自宅などに連絡が取れない場合、学校に連絡ができることをお子様にお伝えください。